

●国際ロータリーテーマ



SABAE ROTARY CLUB

●クラブ活動方針

2015.7-2016.6

塩梅よく

会長 小部 隆充
幹事 大橋 良史

●4月 第3例会

●R1第2650地区スローガン 『クラブに「個性」と「憧れ」を!』

●第2751回 平成28年4月15日(金)

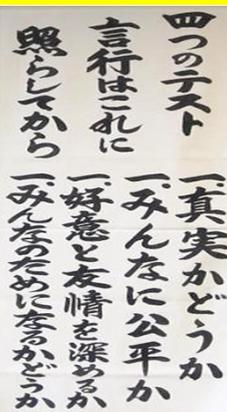
点 鐘 12:30~
四つのテスト
ロータリーソング斉唱
会長の時間
幹事報告等

卓話 陸上自衛隊第372施設中隊 鯖江駐屯地 司令 林 豊様

テーマ 「鯖江駐屯地の役割」

▼第2750回例会報告 平成28年4月8日(金) ▼鯖江商工会館 3階中ホール 出席率 80.0%

四つのテスト



我等の生業

佐野 直美 ソングリーダー



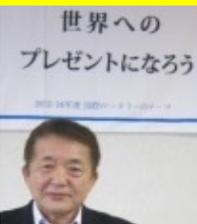
当市担当者は「人口減少対策は、県全体で取り組んでいく課題。県内で奪い合いしているのでは意味がない」と話し、県内でスクラムを組んで取り組む重要性を指摘。人口増を喜んでばかりもいられないようである。

幹事報告



- ① 京都での地区大会、22名登録、14名参加賜り、感謝申し上げる。オープニングを飾ったソプラノ歌手、田村麻子さん。ロータリー財団奨学生の経験を活かし、世界で活躍中。この日のためにニューヨークから、駆けつけました。
- ② 明日はアクトの千回記念例会。14時から、めぐねミュージアムで開催される。参加の方はエプロンを持参願いたい。
- ③ クラブ協議会を4月15日に例会終了後開催。委員長、役員の出席をお願いする。委員会の経過報告や今後の活動について、情報を共有したい。引き続き、理事会対象の方々にロータリー賞選考委員会を重ねてお願いしたい。
- ④ リサイクルペーパーの回収を4月16日(土)午前9時から実施する。よろしく願いたい。

お客様の紹介と会長の時間



先日の地区大会、多数の参加お礼申し上げます。本日のお客様、市鳥獣害のない里づくり推進センター、所長、中田都様(写真右)。後ほど卓話願う。5年に1度の国勢調査。



2015年分速報で、県内15市町中、鯖江市だけ人口が増えた。小部 隆充 会長 都会からの移住者が増えているのではない。隣の越前市は、人口減が県内で最も多い4,001人。越前市や福井市等、近隣市町のベッドタウン化が背景。

今回の調査で県全体の人口は、前回から2.38%、19,215人減の787,099人。過去最大の減少数と減少率を記録。一方で、当市は前回より887人増の68,337人。市が誕生した1955(昭和30)年以降でも、12回連続増の状況。

市秘書広報課によると、転入者の多くは県内からの若い世代。市把握の最新統計によると、2013年転入者1,623人の内、県内からは1,099人で2/3を占める。福井市や立地企業が好調な越前市への就職や結婚を機に移住。福井市と比べ、安い地価や集合住宅が多いのも、転入を後押し。

さらに市で見た場合、越前市から当市に転入してきた人が最も多い。越前市に勤めながら、当市に住む人が増加。

越前市担当者は「市内に働く場所はあるが、住居確保は不十分だった」と、大手中心に好調な地元企業の旺盛な求人がある一方で、住宅施策が追い付いていないことを説明。



委員会等報告



●窪田健一ロータリー寄金(米山)委員長が「お陰様で昨日現在、ロータリー財団の方が1人平均173ドル。あと、7ドル強は目標値で地区が言っている。全員だと1,000円もしなくても十分成り立つが、あと少し皆様ので目標以上に達成したい」と、協力を依頼しました。



●帰山明朗副幹事が「次年度幹事の立場で申し上げます。例会終了後、第1回次年度理事会を開催する。地区大会でもあったように、いよいよ次年度の準備が始まる。よろしく願いたい」と述べました。

ニコニコBOX報告

(敬称略・順不同)

- 1 小部 隆充
- 1 大橋 良史
- 1 窪田 健一
- 1 野呂 和夫
- 1 齋藤 多久馬



1: 中田様ようこそいらっしゃいました。よろしく願います

卓話 市鳥獣害のない里づくり推進センター 所長 中田 都 様

テーマ「市の鳥獣害の現状と対策等について」



「鳥獣害のない里づくり推進センター」は、市レベルでは稀な機関である。全国でも当市にしかない。手元の「人と生きもののふるさとづくり」マスタープランを推進する立場にある。今日は、少しでも皆さんの暮らしの中で、繋がりを発見してもらいたい。

先日、メスザルに発信器を付けた。メスに付けると群れの動態が分かる。また、新聞等で騒がせたサルが街中に出る事案があった。でも、問題になるのは、群れのサル。市内では、西側のサルが問題だった。昨年、サル群れが南越前町から北上し、河和田方に遠征してきた。とうとう鯖江では、2群のサル体制になった。この背景には、南越前町から南にサルがいると予測している。

平成24年頃、嶺北には6群だけいた。調査の結果、西の越前A、Bは、去年、1群であると判明。南越前町の群れA、B、Cは、去年暮れから調査している。実は、越前A群が名前を変えて、鯖江C群や越前C群になる。河和田方面まで遠征してくる。すごい移動距離。70頭ほどの群れ。

今、鯖江で問題なのは、西の方の山。三床山でセンサーカメラで追跡中、何とメス鹿と小鹿が写ってきた。鹿は、入りだして8年で非常に大きな被害を出し、爆発寸前の状況。草食獣で危険はなく、おとなしいイメージだが、非常に怖い。植物食なので森の下草が全くなり、うすら寒くなる。越前市の東谷や南越前町境では、農作物の被害が出ている。今、センターでやるべき事は、2つの課題に広域的に取り組む事。地域全体の温度が上がる必要がある。

鹿は、産子数が非常に少なく、捕獲が重要な対策。捕獲場所やどこが濃厚か、調査している。最初はセンサーカメラで調査していたが、一昨年から森の生態系を測り、どれだけ植物が食べられているか推移を見ている。残念な事に去年準備した場所が、100%食べられている。西大井の黒袴神社横でアジサイが食べられ、片上で鳴き声が出た。

■鳥獣害の農作物以外の被害

私は関係ない、という方が結構いる。ところが、建物に入られると、そうは言ってもらえない。庭に遊びに来ただけでも嫌だが、天井裏に入るのがハクビシンとアライグマ、最近の朝鮮イタチ。人身被害は警察沙汰になることが結構ある。先日、金谷峠で車が150^{kg}超のイノシシとぶつかった。自分で車両保険に入っていないと泣き寝入り。命があっただけいい。そして、クマは誰もが危ない。

生態系の被害は、皆に関係。アライグマが増えるとカエル、希少動物を食べる。水辺の生態系が崩れ、虫が多く発生し世の中のバランスが崩れる。誰も関心ないが、外来生物のアライグマ等による生態系の破壊が、大きな問題になる。植物もオオキンケイギク等鯖江に多く入ってきている。

次にNOSA I 資料の被害金額指標で見ている。嶺南地区と丹南地区を比較すると、丹南が嶺南を超している。越前市が当市の倍以上。丹南地区を代表する被害都市。鯖江は立待地区が多かった。自衛隊近くで電気柵を張ったら、



治まってきた。まだ繋がっていないので、日々進化中。河和田地区も治まってきたが、今すごく問題なのは、片上地区。市の90%を抱えている重点対策地区。

越前市の被害は、まんべんなく出ているが、中でも最も大きいのが白山。南越前町は対策が上手くいっていたが、耕作者体制が変わる等、被害が復活している地域がある。池田町は、被害が多そうだが、案外安定して守っている。当市は、少ない金額で推移。目標として160-180万に抑えたいとマスタープランにあるが、達成している。福井県の被害は、1億円で高止まりしている。全国は、H26年の農作物だけで191億円。この内サル、鹿、イノシシで70%。

これらの被害対策は、県事業で刈払って、ネット柵、電気柵を張り、緩衝帯を設ける。川島から下新庄まで9^{km}、川去から漆原まで、河和田の奥地も繋がっている。他、1秒間に1回、9,000^{ボルト}のパルス電流を流す電気柵を山際に作りたいが、人出が足りない等対策できないところが多い。

■被害だけで測れず、非経済活動を実施している部分

通報件数が当市は右肩上がり。アライグマ、ハクビシン、アナグマ等の中型哺乳類の事件が、市内街中でも発生。そして、問題になっているのが去年からやってきたサル。東の方と街中でも出ている。対策は、電気柵と捕獲。イノシシとハクビシンが結構捕れている。捕れたものは、解体処理施設に持ち込む。ホテル等で提供できるよう努力。対策地域の方が一生懸命捕獲したものを何もしないと切ない。

利用するため行事をする。お陰様で評判よく、リピータもできた。無駄な命を作らないよう、皆さんを誘いたい。

また、けものアカデミーでリーダー育成研修している。鯖江の獣対策の伝統を伝授。女性も参加し、獣モニタリングやサルの追い払い方を勉強している。外部に情報を伝授しようと、学生が山里で暮らし対策を手伝ってもらおう。ものづくりのまちとして、木工職人の移住者をゲストに、対策地域の奥さんに柿の木でスプーンを作ってもらおう。

■最後に

この対策は、野菜を守るという事で農林政策課に来てくれる。環境課や防災危機管理課の方がいい、という意見もあるが、食べるという事に起因して対策するのが自然の流れで、農林政策課の中に対策推進センターができた。

獣対策をすることは、元々人の暮らしが健全な状態だったら、こんなに獣が増えていない。昔は、クマも食べた。アナグマもおいしい。文化として対策するといい。色々な生業を守ることが地域全体を守る事と思い、農林政策課ではあるが、少しよそ見をしながら仕事をしている。

お年寄りの生き甲斐や健康な暮らしを守り、社会全体を守ると、若者がカッコいいじいちゃん、といってリピートしてきている。カッコいい大人は大事だと思う。

結局、対策、対策で始まっているが、だんだん不満になり、余計なことを考えたくなくて来ている。今年、次のマスタープランを作る準備をしている。今度は企業パートナーを見つけて、もう少し小銭を稼げる生き物対策をしたい。

実際、電気柵に下新庄でまじめに取り組み、3年で獣道が遠ざかった。対策は、取るだけでなく守り、人間活動が盛んになると停滞してくれる。効果が明らかになった。

河和田地区では、牛も対策に参加。毎年6から11月頃まで、若狭牛の母牛が来て、鯖江マタニティリゾートとして夏の間を過ごす。お腹に子牛がいて、健全な子牛を生む。来月は、ホルスタインの雄牛を飼う。関心があったら、現場に来て対策地の方の気持ちに寄り添ってほしい。

